



桂川っ子

VOL.78

子どもの体力向上に向けて

桂川小学校 校長 大庭公正

いつでも元気に体を動かすことができるのは、体の活動を支える体力が備わっているからです。体力が高まると、病気にかかりにくく、かかっても治りやすくなります。また、脳の働きもよくなり、物事に対する「やる気・集中力・粘り強さ」が高まります。体力は、子どもたちの健全な発達や成長を支え、より豊かで充実した生活を送る上でたいへん重要なものです。こうしたことから、本校では、**体力づくり**にもこだわって取り組んでいます。

校長室の窓から外を見ると、多くの子どもたちが元気に走り回っている姿を目にします。ドッチボールやサッカーをする子ども、鬼ごっこをする子ども、一輪車で遊ぶ子ども、砂場で砂遊びをする子ども等々、多くの子どもたちが外遊びをしています。

遊びは、やらされるのではなく、「やらずにはいられない」というもので、子どもは興味があれば遊び続けてみるし、やってみて面白ければ遊び続けます。そして、遊びの中で様々な運動経験

「桂川っ子」の文字は、桂川中学校美術部員がデザインしたものです。



をすることで、体を上手に動かすことができるようになり、体力も自然につき、仲間との遊びから心も発達していきます。

しかしながら、休み時間や昼休みになっても、教室に閉じこもっている子どもたちがいることも事実です。まさに、運動の二極化現象が本校にも現れています。

遊ぶこと、運動することに興味を持ってない子には意図的・計画的に運動に触れさせる機会をつくってやらなければなりません。そこで、全校的に取り組んでいることが、「**スポコン広場**」です。12月6日の土曜授業では、「みんなでなわとび」大会を実施し、保護者の方々や地域の皆さんに子どもたちの頑張りを観ていただきます。子どもたちの生活の一つ一つが体力の向上に結びついており、毎日の登下校も自分の足で歩くことが体力づくりとなります。

体力づくりの良さを学校、家庭、地域で共有しながら、これから寒い季節に向かっていきますが、子どもの体調にも配慮しつつ、体力向上を奨励していきたいと思えます。

平成26年度「全国学力・学習状況調査」における桂川町の児童・生徒の状況 (その2)

桂川町教育委員会

先月号に引き続き本年度の「全国学力・学習状況調査」から見える桂川町の児童・生徒の状況を報告します。

調査では学力の状況だけでなく、学習の状況や生活実態も見えてきます。まず、「子どもたちの意欲」についての項目です。

○難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか

○自分には、よいところがあると思えますか

○将来の夢や希望を持っていますか

これらの項目が、小中学校ともに全国平均よりも3〜4ポイント高くなっています。

また、「友達関係」についても、

○学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか

○友達との約束を守っていますか

○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

これらの項目も小中学校ともに高く、友達関係は良好であろうと思われ

ます。「授業」についてのアンケートで高かった項目では、

○授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思えますか

○授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思えますか

○授業のはじめに、目標(めあて、ねらい)が示されていたと思えますか

○授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思えますか

これらの項目のポイントも全国や県よりも高く、学習に臨む意識が充実していることがうかがえます。さらに、

○授業で、自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりすることは難しいと思えますか

についての項目では、「そうは思わない」児童・生徒の割合が高く、自分の考えを表現する力が育ってきています。

このことは、本年度の学力調査の結果からも言えます。桂川町の児童・生徒は、小・中学校とも国語と算数(数学)の活用問題における記述式問題への無解答(答を書かない)が少なく、しかも書いた答の正答率が高い状況です。

学習は、学ぶ意欲から始まると言っても過言ではありません。子ども達への更なる支援をよろしく願います。

